

議会報告会質疑応答記録

記録作成：議会基本条例推進委員会

- 開催日時：平成28年4月24日（日）10時00分～12時00分
- 開催場所：ラディアンミーティングルーム2
- 参加者：26名
- 主催者側：議員（14名）、議会事務局（3名）
- 次第
 - ①挨拶（添田議長）
 - ②平成28年度予算概要と重点施策説明…予算審査特別委員長（根岸副議長）
 - ③上記②の説明に対する質疑応答
 - ④グループ意見交換会
 - A：東大果樹園跡地活用 B：地域包括ケアシステム C：平成28年度予算等
 - ⑤グループ発表（グループごとに意見交換内容のまとめを発表）

<議会報告②に関わる質疑応答>

参加者：シティプロモーション事業の2,020万円の国で不採択。県や他の補助金を検討中ということだが、やることは補正が決定したからやるということか。またその金額はどの位を見込むか。

根岸副議長：町の説明では金額は縮小、事業は進めたいとのことだった。

大きく占めていたのはアドバイザー委託料で、専門家の知識の部分だったから、そこは縮小していく。まだどういう財源があるか説明はない。

参加者：下水道料金の改定は住んで良かったということになるか。下水道を接続すべき地域が接続した場合は、値上げしなくても見合うのか。汲み取りは3年以内にといいことがあるが、それ以外は可及的速やかにと期限がない。5年、10年になるかも知れないがそれでいいのか。下水道料金値上げはもってのほかではないか。

添田議長：おっしゃるとおり課題である。スライドの資料(P.2)に示したものは議会の見解ではなく、町から出てきたものを並べただけ。審議のときに、下水道使用料の改定が、住んで良かったということかと言う話が出ていない。

使用料の引き上げは持続可能な下水道事業にするためにせざるを得なかった。

接続率を上げれば、改定しなくて済むようになる。下水道特別会計は独立しているが、一般会計からも繰り出されている。それは利用者と非利用者との間に不公平感がある。そのために使用料の改定で一般会計からの操出を減らす。

下水道接続は割引などをして、勧奨しているが、もっと議論をしなければならない。し尿処理の維持管理費が膨大。そちらと一体化して考えて将来の計画をとというのは予算の意見書を町に出した。

参加者：町から出されたものは議員が審議したからOKということだと思うが、28年度の施策はたくさんある。地域包括ケアシステムについて、センターでも同じような内容でやっている。このような新しい施策を町と一緒にやっていくことを、各町内の役員の方はどのように思っているのか。町と議員と町内の連携は。それを一般の町民に分かるような形にならないと、3者で決めてしまうようなことでは困る。各町

内のあり方はどのようになっていくのか。地区長さんのやることがどうもよく分からない。

小笠原議員：百合が丘でモデルを進めようとしている。また今年は5地区に説明をしていこうとしている。

国は介護保険で支えてくる仕組みをしてきたが、明らかに2025年に向かってはサービスが足りなくなるのは目に見えている。28年は第6期の計画を持っている。7、8期になってくると明らかに厳しくなってくる。心配しているのは、要支援1、2はデイサービス等に行けなくなるのではないかということだが、総合事業でデイサービス、ヘルパー、お手伝いを変えない形で今までどおり進めると言っているから心配しなくていい。

新興住宅地と、既にある住宅地との仕組みが違う。百合が丘、富士見が丘は高齢化が進んでいる。高齢化率40%ほどだ。地区長や地区社協が真剣に進めている。自治会を入れて、百合が丘地域福祉協議会というのを夏以降に作った。これから地域資源(体操クラブなど)をどう活用するかを検討して行こうと。そういった協議会のようなものを各地域で立ち上がっていくことが良い。町からやれということにはならない。専門の課もできたので、今年は見えてくると思う。

参加者：下水道料金、ライフラインで大事な部分。消費税を3%上げるので大騒ぎなのに、13%も一気に上げるのはどうなのか。不公平感とはどの部分か。住民に対して下水道料金の値上げの啓発は。住民が納得しているのか。採決では12対1で賛成、住民感情をどう考えているのか。

添田議長：不公平感というのは、一般会計から繰り出していることである。そうすると、今、町で下水道を整備されていない地域の方の税金まで使うことになる。繰り出しの割合を下げたい。整備されている地域の約7割が接続されている。接続したいのに整備されていない人。整備されているのに接続しない人。一般会計からの操出=利用していない人にまで負担がある状況。し尿処理の維持管理費が膨大。接続時の補助をもっとするなどをして下水道とし尿処理を総合的に考えていかなければならないのではないかと。

桑原議員：受益者負担金を皆さんが払っている。「雨水は公費・汚水は私費」の原則で使用者負担の原則に基づき、市街化区域を優先に繋いでいる住人と、市街化調整区域の未だに繋いでいない住人との格差をなくす為、下水道料金の改定をした。中には接続をしないところもあるが、基本的には子どもたちの未来のために、住みやすい環境をつくることで、安心して住みやすい町づくりのために協力してもらいたい。

小笠原議員：13.1%は平均である。

(以上の質疑応答の後、グループに分かれ意見交換会を開催)